

## 1. 活動報告（事務局 記）

- 5月5日（日）会員15名及び観察隊1家族（溝邊家5名）が参加し、水路の整備（稲作開始に向けた周辺の除草および溝上げ、道路沿い水路の整備）、キショウブ除去の作業を実施しました。休憩時には役員会議を実施し、水車の修復方針について話し合いをしました。
- 5月11日（土）周南市の福川子どもクラブがビオトープへ自然観察に来られました。天気も良く、少し暑いくらいでしたが、子供たちは元気に駆け巡っていました。参加者は、子ども24名、スタッフ18名、つくる会は原田会長、菅・前田・原谷会員で対応しました。
- 5月18日（土）親子自然観察隊は野鳥観察でした。小雨の中、また一部の小学校では参観日のため、参加者は少なかったですが、それでも子供たちは見つけるのに必死で、鳴く声のみを含めて21種の鳥が確認できました。参加者は観察隊（親6名、子8名）、宇部野鳥の会の講師（白須さん、寺本さん）、会員11名でした。

## 2. 今後の予定（事務局 記）

### ◎来訪者

予定はありません。

### ◎行 事

- 5月25日（土）稲作体験田植え準備、（耕うん・溝上げ・草刈り・注水開始）
- 6月 5日（水）田植え準備（代掻き・どろ持ち整地）
- 6月 9日（日）稲作体験・田植え（親子自然観察隊・二俣瀬子ども会を招聘）
- 6月15日（土）維持活動（草刈り）
- 6月22日（土）維持活動（草刈り）

## 3. 来訪者の声

今回はありません。

#### 4. 会員の声 「一人舞台」 （原田満洲夫 記）

「里山ビオトープ二俣瀬」を創設し当初は地区内の会員も全体75名の半数以上は、二俣瀬地区の人であったと記録に残っている。現在は12名となった。有る会員は逝去され有る会員は高齢を理由に退会された。「二俣瀬をアピールする場」とコンセプトの一部に挙げたが来年は20年を迎える。今となっては、この二俣瀬の地区内の人もビオトープの事をあまりよく知らない。

時々駐車場に車が沢山止っている事が在るがあれは何だったのか？などとの質問を受けることもある。

今回の水車修復で公共の助成を仰ごうとコミニテイ協議会で話しても初めてビオトープの名前を聞いたという人もあり、創設時にコミニテイ・自治会連合会・社会福祉協議会ほか諸先輩が地域の活性化を図ろうと血に汗の出る思いで誘致した事等、今は一部の人間しか知らない。一般的にこういう活動は“龍頭蛇尾”になり、消えてゆくものであるが、現在こんなにも長く続いているのは今も留まって活動している会員の「うぬぼれで一人舞台」であったのだろうか？

#### 5. 親子自然観察隊 「野鳥観察」 （管 哲郎 記）

朝から雨で今日の観察会が心配されましたが、幸いにも雨は小降りとなり、少々肌寒いくらいの天気でしたが、講師の先生によると鳥たちの出現も降雨には関係ないとのこと、しかも小雨の中21種類ほどの鳥を観察することができました。

講師には常盤動物園の“白鳥の先生”白須道隆氏、山口市阿知須きらら浜の野鳥観察公園より寺本明広氏に来ていただき、観察中、観察後にもいろんな鳥類の生態をお話ししていただきました。隊員の出席者は参観日と重なり7家族と少なかったのですが、雨にも負けず参加していただき、ビオトープの会員も加わってにぎやかに観察会を行いました。

観察会の終わりには「鳥合わせ」を行い、どんな鳥が見られたかを確認しました。

1. ツバメ 2. スズメ 3. ヒバリ 4. ウグイス 5. カワラヒワ 6. メジロ 7. カワウ
8. ホトトギス 9. ハクセキレイ 10. セグロセキレイ 11. コゲラ 12. ドバト
13. キジ 14. ハシボソガラス 15. シラサギ 16. ダイサギ 17. アオサギ 18. トビ
19. ミサゴ 20. キビタキ 21. ハジブトガラス

以上の21種類を今回は確認しました。雨のためみられる鳥は少ない予想でしたが、思った以上に多かったようです、やはり専門家においていただくと種類が多くなりますね。なお、双眼鏡も「常盤動物園」と「きらら浜野鳥観察公園」より30台ほど貸し出していただき、隊員のご家族にも使っていただきました。扱い方も事前に教えていただきましたが、低学年のお子達にはちょっと難しかったかな！雨のせいでレンズが曇り見えにくかったようです。

野鳥の観察で思ったことは、鳥の鳴き声などを勉強しておく、もっと多くの鳥たちの確認ができるのに！と思いました。最後にとりに関する質問を受け付けました。「鳥はケンカするの？」とか、渡り鳥は多いのかなど、今日も大変良い勉強をさせていただきました。講師の皆さま、隊員の皆様、お疲れさまでした！



雨の中、観察会を行いました



最後に「鳥合わせ」を行いました

### 親子自然観察隊の感想

★溝邊義人

色々な野鳥の種類がいるのにびっくりしました！

★溝邊寛人

色々な鳥の種類がみれて、名前も教えてもらい勉強になりました。特にヒバリがみれてよかったです。

★溝邊(母)

いろんな鳥の巣やミサゴの育児の様子を見れてよかったです。鳴き声や通りがかっただけで鳥の名前がわかる先生方はすごいなと思いました。

★有吉遼

いつもと違い、鳥をしっかり探すと、スズメやカラスでも見つけた！！という気持ちになりました。身近な鳥がおもしろくなりました。

★有吉祥子(母)

雨の中でも多くの鳥が活動していることに驚きました。また、はるか彼方にある野鳥を見つけ出す先生の眼力にも驚かされました。視点を変えてみれば、見えていないものが、まだまだたくさんありそうです。

★中本亜矢子(観察隊 副隊長)

今年の野鳥の観察会は雨降りでした。当初、雨天では鳥の観察は難しいのではないかと心配していましたが、降ったり止んだりの天気の中、例年並みの鳥が観察できたので安心しました。今年の観察会で心に残っていることは、鳥の巣をいくつか観察できたこと。電柱に作られたカラスの巣、鉄塔に作られたミサゴの巣 らしきもの。会員が見つけた使用済みのメジロの巣などなど。寺本さんの望遠鏡で覗いたら、はるか彼方の鳥の巣が目の前にあるかのように観察でき、その性能にも驚きました。カラスを見ても素人目には違いを見分けるのは難しいですが、専門家はわずかな違いでハシブトカラス、ハシボソカラスとを見分けることができ凄いですね。最後に子どもたちからの質問タイムがありましたが、「スーパーで売っている鴨肉は合鴨の肉なのか?」「鳥は川に巣を作ることがあるか」など、子どもらしい発想の質問に盛り上がりました。観察隊で子どもたちと接していると、忘れていた「子どもの心」を思い起こさせてくれます。みなさんのおかげで楽しい時間を過ごすことが出来、感謝です。

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(39) ニシキリギリス *Gampsocleis buergeri* (キリギリス科)

これまで「キリギリス」とされていた種は、最近の研究でニシキリギリスとヒガシキリギリスの2種に分割されました。発音器、前足の長さ、黒斑の多い少ないなどの変化で同定されるようですが、筆者にはよくわかりません。体長は30~40mm、♀がやや大きく、明るい草地に普通にいます。コオロギやイナゴ、ツユムシなどに比べ大きいのでわかりやすいです。6月~10月に見られますが、やや敏感で、近づくと葉裏に隠れますので、そっと近づき観察する必要があります。

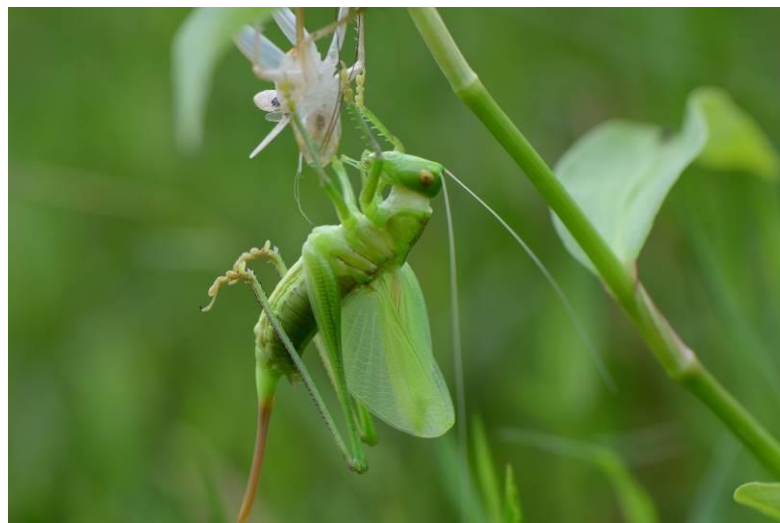
筆者はキリギリスが自分と同じくらいの大型のクモを捉え食べているところを撮影・記録しています、草だけかじって暮らしているとはばかり思っていました、驚きました。



ニシキリギリスの♀ (厚東川土手)



キリギリス♀の食餌 (クモを食べている)



ニシキリギリス♀の脱皮 (二俣瀬ビオトープ)

参考・引用文献

村井貴史・伊藤ふくお, 2011. バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑. 449pp. 北海道大学出版会. 札幌.

## 7. 会よりの連絡事項

- 1) 5月5日の活動日に行いました役員会議で話し合われた事を報告します。
  - イ) 5月30日と6月3日の2回に渡って中国電力(株)旧宇部電力所のボランティア活動が行われます。今年も近辺の竹林整備を予定しています。
  - ロ) 11月12日宇部工業高校の生徒が野外活動で当ビオトープに来て活動されます。
  - ハ) 山口県から二俣瀬コミュニティ推進協議会を通じて助成金を申請しおおむね承認が得られますが、当会では来年度の20周年記念イベントに向かって水車の金属部製作費や長机、テント購入等プレイベントと云う名目で申請しています。  
記念事業のアイデアとして、以下のようなものが出されました。
    - ため池や湿地の浚渫をイベントとして実施し、補助金で重機あるいは高圧洗浄を賃貸。
    - 新造した金属部を利用し、小型化した水車を回転可能な状態に再建する。補助金と備蓄を使用。
    - 新造した金属部を利用し、現在の水車の木部を解体修理して回転可能な状態に再建する。補助金と備蓄を使用。
    - 現在の水車を回転しないまま保存する。木部の保存性を高めるための散水施設を補助金で製作。
- 2) 田植え時のひざ癒し時のおむすびを作って下さる方を募集します。
  - ※ 精米は25日に持ちこみます。

## 8. 編集後記 (大野 靖子 記)

今年度も5月11日、福川こどもクラブの子供たちが二俣瀬ビオトープに伺い、お世話になりました。午前中はトンボや水棲の生き物等をつかまえて観察し、お昼の休み時間はとても天気が良かったので、川でびしょぬれになって遊びました。午後からはビオトープの会員の皆さんから、昆虫観察などのお宝を見せて頂いたり、エコアップや、ビオトープでのんびり過ごす時の楽しみ方などを教えて頂きました。この春にラジオで野口健さんが、「宿泊の環境学習などで、子ども達は最初、勉強をよくして環境について話すけれども、実体験がないからちっとも自分の耳に入っていない。けれども、宿泊の活動で体験をしていく中で、だんだん耳に入ってくるようなことを話すようになる。」と言っておられました。そういえば、福川こどもクラブの別の講師の方も、自然の中で実体験をするということは、とても大事なことだと言っておられたのを思い出しました。自分が子どもの時はよく小川や海岸で遊んでいましたが、今の子供たちはなかなかそうもいかない。けれども実体験を得ることで、大きくなったときと何らかの生きる力になるのではと思いました。今回のビオトープでの活動の打合せでも、ビオトープ会員の方が「子供たちに自然の中での体験をさせてあげたいの」とおっしゃられるのを聞きし、みなさん同じことを思っておられるのだなと、力がわいてきました。